

令和7年度 住之江区区政会議第3回全体会 会議録

1 開催日時 令和8年3月17日（火）19時00分から20時45分まで

2 開催場所 すみのえ舞昆ホール

3 出席者〔区政会議委員〕

（会場参加）

小川 宗治 議長、糸岡 智美 副議長

はぐくみ・教育部会：勝原 真一 委員、杉村 和朗 委員、高橋 邦恵 委員

茶谷 尚世 委員、畑中 信人 委員

たゆま・まちづくり部会：久保 正恵 委員、鈴木 明 委員、高田 尚史 委員

谷本さやか 委員、三木 康彰 委員

防災・安全部会：五十崎晴久 委員、大山 妙子 委員、坂田 光典 委員

太郎良勇二 委員、中川 隆夫 委員、山中 啓輔 委員

〔市会議員〕

岸本 栄 議員

木村 ひかり 議員

片山 一歩 議員

〔住之江区役所〕

藤井 秀明 区長

玉置 信行 副区長

来馬 恵 ICT・企画担当課長

井平 伸二 協働まちづくり課長

戸井 正人 防災安全担当課長

三宅 政則 窓口サービス課長

松本 勝也 保健福祉課長

藤原 学 子育て支援・教育担当課長

福田佳代子 保健担当課長

岩本 穰 生活支援課長

岸田詠美子 ICT・企画担当課長代理

4 議 事

(1) 令和8年度住之江区運営方針（案）について

(2) その他

5 発言内容

○岸田 ICT・企画担当課長代理

皆様、こんばんは。

本日はお忙しい中、ご出席賜りましてありがとうございます。

ただいまより令和7年度住之江区区政会議第3回全体会を開催させていただきます。

私は、本日司会を務めさせていただきます住之江区役所総務課 ICT・企画担当課長代理の岸田でございます。どうぞよろしくお願いたします。失礼して着席させていただきます。

それでは、本日出席いただいている委員の皆様をご紹介します。お手元の名簿を見てご確認ください。

今、会場にお越しいただいている委員は「はぐくみ・教育部会」より杉村委員、小川委員、高橋委員、茶谷委員、畑中委員。「すこやか・まちづくり部会」より三木委員、久保委員、鈴木委員、高田委員、谷本委員。「防災・安全部会」より五十崎委員、

糸岡委員、大山委員、太郎良委員、中川委員、山中委員でございます。

本日、区政会議午後7時現在で全委員23名中16名のご出席をいただいておりますので定足数である委員定数2分の1以上を満たしておりますことをご報告いたします。

また本日、アドバイザーとしてご出席いただいております市会議員の皆様をご紹介させていただきます。

市会議員の片山様でございます。

○片山市会議員

こんばんは。片山でございます。

○岸田ICT・企画担当課長代理

市会議員の岸本様でございます。

○岸本市会議員

こんばんは。お世話になります。

○岸田ICT・企画担当課長代理

市会議員の木村様でございます。

○木村市会議員

よろしく申し上げます。

○岸田ICT・企画担当課長代理

本日、市会議員の松崎様、府議会議員の永井様におかれましては公務のためご欠席でございます。

住之江区役所の出席者につきましては時間の都合上、配席表にてご確認ください。職員が発言する際には、役職と名前をお伝えしますのでよろしくお願いいたします。

なお、大阪市では近年の気候変動対策をはじめとする環境施策や職員の働き方改革の関連を踏まえ、軽装勤務の通年化を実施しております。気温や体調等に応じた快適な服装での会議出席になりますのでご了承ください。

この会議におきましては個人情報などの非公開情報はございませんので公開とさせていただきます。本日の資料と併せて後日議事録を公表し、議事録には発言者と発言内容を掲載いたします。また本会議中の映像と音声記録及び広報用に写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。また区政の区民参加の充実に向け、本日の全体会の様子を録画させていただき、会議録公開までの期間限定のYouTube動画として区のホームページへ掲載しておりますのでご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは会議に先立ちまして、住之江区長の藤井よりご挨拶させていただきます。

○藤井区長

皆さん、こんばんは。住之江区長の藤井でございます。

今日は、大変お忙しい中、お仕事もあられる中、本会議にご参集いただきまして本当にありがとうございます。また新メンバーになってから、この各部会での議論も非常に活発と伺っております。また、前向きで建設的なご意見も多数いただいていると伺っております。本当にうれしく、心強く思っております。本日もどうか活発なご議論をしていただければと思います。

先ほど、開会の前に音楽が流れておりましたけども、もう既に耳にされた方もいらっしゃると思うんですけど「ええまち住之江」といいまして、住之江区のイメージソングでございます。昨年の8月から11月まで公募して37曲の応募の中から、専門家の方のご意見もいただきながら選ばれたイメージソングです。これからスーパーですとか、フェリーターミナルなどでも流れながら、くせになりそうなメロディーの曲なんですけれども、ぜひ愛着、親しみを持っていただけるように区としても広げていこうと思いますので、どうかかわいがってあげてください。よろしくお願いいたします。

今日ですね、この会議は「令和8年度住之江区運営方針（案）について」を議題としておりまして、運営方針の策定及び取組について議論いただくこととなっております。

す。ぜひ皆様方の真摯な忌憚のないご意見をいただきまして、ぜひ活発なご議論をいただければというふうに思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは本日もお願いいたします。ありがとうございます。

○岸田 I C T ・企画担当課長代理

ありがとうございました。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。まず本日の全体会の次第でございます。住之江区区政会議委員名簿。資料1「令和8年度住之江区運営方針（案）について」。資料2「各部会から出された主なご意見」。参考資料「令和8年度住之江区予算事業一覧（案）」でございます。そのほか、次第には記載しておりませんが「区政会議について」がございます。区政会議でいただきました委員のご意見は地域活動協議会会長会で報告するとともに、地域活動協議会の仕組みや活動内容などについては全体会で報告し、相互に情報共有を図っているところです。また住之江区役所公式SNS、ウェブサイトについては区役所が情報発信を行っているSNS及びウェブサイトのご紹介として配付しております。合わせて、住之江区まちづくりセンターにおいてもSNSで地域活動に関する情報発信をしておりますので、ご紹介として配付しております。また、先ほど藤井区長からもお伝えいたしました住之江区イメージソングについてご紹介として配付しております。こちらに掲載しております二次元コードより曲をお聞きいただくことができますので、またぜひお聞きください。お手元にありますでしょうか。

資料1「令和8年度住之江区運営方針（案）について」は、各部会で使用した資料を取りまとめたものです。続いて、資料2「各部会から出された主なご意見」につきましては、各部会においていただきました委員の皆様からのご意見を具体的取組ごとに掲載し、取りまとめています。後ほど、各部長より報告がありますので、ご確認ください。

次に発言に当たっての注意事項をお伝えいたします。発言は必ず議長から指名があ

った後に行ってください。実際に手を挙げていただき議長からの指名をお待ちください。係の者がマイクをお持ちいたしますので、マイクが手元に参りましたらお名前を名のった上でご発言ください。

それでは議事に移ってまいります。議事進行につきましては、小川議長にお願いしたいと存じます。小川議長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○小川議長

はい、皆様、こんばんは。それでは議題1の「令和8年度住之江区運営方針（案）について」に移りたいと思います。

事務局より何かありますでしょうか。

○来馬ICT・企画担当課長

ICT・企画担当課長の来馬でございます。私のほうから、お手元の参考資料のほうについてご説明させていただきます。座らせていただきます。

まず参考資料1の「令和8年度住之江区予算事業一覧（案）」につきまして、ご説明させていただきます。A3の資料となっております。

こちらの資料につきましては令和8年度の住之江区関連予算のうち区長自由経費として、区長マネジメントにより施策の選択と集中を進めながら予算の算定を行い、予算案として公表された予算事業一覧として現在、市会でもご議論いただいているものがございます。こちらの一覧には、本日区政会議委員の皆様にご議論いただく令和8年度住之江区運営方針（案）に掲げております具体的取組に係る事業につきまして区政会議の該当部分ごとに色分けし、表の一番右側の列に該当部会名を示しております。

住之江区役所としまして、令和8年度予算案に計上いたしました要求額の合計額は、一覧の一番下の欄に記載されておりますように庁舎設備維持費等も含めまして、4億526万7,000円となっております。区政会議委員の皆様には、住之江区予算の概要やどのような事業が行われているかなどをご覧いただければと思います。

令和8年度新年度予算事業一覧（案）に関する説明は以上でございます。よろしく

お願いいたします。

○小川議長

ありがとうございました。

それでは各部会より部会の中で出た主な意見と、それに対する区役所からの見解等について報告していただきます。全ての部会の報告と区役所の説明の後に委員の皆様から部会を越えたご意見を頂戴したいと思います。

初めに、はぐくみ・教育部会より報告をよろしく申し上げます。

○杉村部会長

はい、はぐくみ・教育部会の杉村です。

はぐくみ・教育部会では2月19日に第3回の部会を開催し、全8名中7名の参加がありました。令和8年度住之江区運営方針（案）について意見交換を行いました。それでは、第3回はぐくみ・教育部会において意見交換を行った主な内容について報告いたします。

まず初めに区役所から令和8年度住之江区運営方針（案）についての説明があり、その後具体的な取組の説明がありました。

資料1の5ページの「具体的取組」、資料2の1ページに部会での意見交換が記載されておりますので、ご覧ください。

区役所からは「安心して子育てができ、子どもたちが笑顔で育つまち」に向け、支援が必要な児童生徒への取組と、全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備の取組についての説明がありました。

次に「子どもたちがいきいきと学び、成長していくまち」に向け、児童生徒の学力向上に向けた取組とチャレンジ精神や課題解決力を身に付けたり、学習の目的を見つけたりする機会づくりの取組についての説明がありました。

これに対し委員からは、基礎学力アップ事業のチラシを個別に配布していただいているがホームページにも掲載してはどうか。また、広報紙に載せて周知してはどうか。

また、基礎学力アップ事業についてなかなか受講できない児童生徒もいるので、オンラインや動画などの活用も含めいろいろな機会や環境を整えることで参加者の増加につながると思う。基礎学力アップ事業の周知に際し、楽しそうに受講している子の様子の動画や写真を載せたり利用者の声を載せる工夫などしてはどうか。また見せ方を工夫し、興味を持ってもらえるようなチラシを作成してはどうか。日本語が分からない外国籍の児童生徒について通常の授業もしっかりできるように対応してほしい。

最後に、大阪市習い事・塾代助成事業について、対象世帯への手続を簡素化すれば利用率が伸びるのではないか、といった意見がありました。

これに対し区役所からは、この事業に興味を持ってもらえるようチラシなどの見せ方に工夫を凝らしながらホームページや広報紙で周知を行ってまいります。またオンラインや動画の活用と合わせて実施拠点の拡大に取り組むことで受講機会の確保を図ってまいります。最後に、学校における外国籍の児童生徒への対応や大阪市習い事・塾代助成事業の手続の簡素化の意見については担当局へ伝えてまいります、との意見がありました。

特に具体的取組 1 - 2 - 1 「児童、生徒の学力向上に向けた取組」については、放課後の学校施設を利用し、大阪市習い事・塾代助成事業を活用した民間塾事業者との連携による課外授業を行っております。この事業につきましては、課題と参加者数の増加に向け、さらに周知の必要があると考えております。令和 8 年度も継続して実施する予定ですが参加者数の増加につながるよう、よい取組などありましたら皆様からぜひご意見を頂戴したいと思っております。

以上、はぐくみ・教育部会からの報告を終わります。

○小川議長

ありがとうございました。

次に、すこやか・まちづくり部会より報告をよろしくお願いいたします。

○三木部会長

皆さん、お疲れさまです。すこやか・まちづくり部会は、2月18日に第3回部会を開催し、7名全員の参加の下、令和8年度の住之江区運営方針（案）について意見交換を行いました。具体的な議論の内容についてご報告いたします。

資料1の10ページからオレンジの枠のところですがけれども具体的取組を掲載されています。28と29ページに付属資料、資料2の2ページに部会での意見が記載されておりますので、ご覧ください。

まず区役所から資料1の10ページから当部会が所轄する経営課題2の4つの取組ごとに令和8年度の取組についての説明がございました。その後、各取組内容についての確認、改善案などについて意見交換を行いました。

主な意見としては、「地域福祉の充実」の取組に関して、地域ではいろいろな行事を行っているが参加しているメンバーはほぼ同じで、参加していない人とつながることが難しい。近隣のつながりが大切になるというふうな意見がありました。

次に、「多様な主体と連携した地域活動協議会による自律的な地域運営の促進」に関しては、若い世代の人にイベントへ参加してもらうため同窓会ネットのようなものをつくってつながる機会をつくったり、二十歳のつどいなどを利用して意見を聴いて、新たなイベント企画につなげて、運営にも参加してもらうようなことを考えられないかという意見や、子どもが少なくなって活動や行事の実施が困難になっている地域もある。子育て世代に住んでもらうために元オリンピック選手によるイベントや相撲部屋が区内に来るなどの魅力ある情報を積極的に発信していくことが必要といった意見。また、大和川に生息しているうなぎを学校で飼育したい人や大和川での開放をやりたい人の情報、スポーツ教室が指導者不足で困っているとか、ソフトボールの指導ができるなどの情報を発信するのもよいのではないかといった意見。子どもからお年寄り、外国人など町会のみinnで毎日掃除をし、花を植えるなどして大阪市で一番きれいなまちをめざすなどの取組はどうでしょうかという意見がありました。

一方、しかしながら協力的な人ばかりではないので、まず住んでいる地域でやれる

ことから始めることで周りに広がっていくこともあると思う。リーダー的な人への支援は必要じゃないか、というような意見がありました。

次に「地域の魅力の共有と発信」に対しては、SNSなど若い人向けにターゲットを絞って興味がありそうなテーマを決めて情報発信していくほうがよいという意見や、自分たちの区では、いろいろな取組をやっているんだということを身近に感じてもらえるような情報を届けてほしいといった意見。SNSやLINEの活用は寂しいと感じる人も多い。掲示板の活用もこれからも大事だというような、ちょっと反対の意見もありました。

区役所からは、区全体で隣近所のつながりが希薄になっているのでつながりづくりを進めるに当たり、どう取り組んでいけばいいのか、実際に地域で住んで感じておられるようなことをお聞かせいただきたいというふうな説明がありました。

その他、区のビジョンが少し抽象的なので具体的な目標をつくる必要があるんじゃないかというような話がありました。この区政会議では、いろいろなアイデアが出るのですが、もうちょっと実現可能なテーマを絞ってそれに取り組んでいくようなことをしたほうがいいのではないのでしょうか。他の区にはない住之江区のいいところをアピールしないと若い人など住民が増えないという意見がありました。

意見交換の内容は以上です。

この後、地域の運営や取組・行事に新たな人に参加してもらうための工夫について、参考となるような意見をいただければ幸いです。

以上です。

○小川議長

ありがとうございました。

次に、防災・安全部会より報告をよろしく願いいたします。

○五十崎部会長

こんばんは。防災・安全部会の五十崎です。よろしく願いします。

防災・安全部会は2月17日に第3回部会を開催し、全員8名中7名の参加の下、令和8年度住之江区運営方針（案）について意見交換を行いました。

それでは、意見交換を行った主な内容について、ご報告いたします。

まず資料1をご覧ください。資料1の18ページ・19ページをご覧くださいと思います。

初めに区役所から18ページと19ページにより経営課題3「安全・安心に暮らすために」に関して3-1「災害に強いまち」。3-2「防犯意識の高いまち」。それぞれの課題設定の根拠となる現状やデータについて説明がありました。

続いて、20ページから22ページをご覧ください。

20ページでは、3-1「災害に強いまち」に係るめざす成果及び戦略についての説明がありました。具体的な取組として、21ページにおいて、3-1-1「自助、近助・共助による防災力の向上と圧倒的多数の人材育成」について説明があり、22ページにおいて、3-1-2「減災のための環境整備」についての説明がありました。

続きまして、23から25ページをご覧ください。

23ページでは、3-2「防犯意識の高いまち」に係るめざす成果及び戦略についての説明がありました。具体的な取組として24ページにおいて、3-2-1「防犯意識の向上に向けた啓発」について説明があり、25ページにおいて、3-2-2「街頭犯罪抑止のための環境整備」についての説明がありました。

次に、資料2の2ページ、裏面をご覧ください。

委員からは、次のような意見がありました。災害が起きたときの状況が想像できなかったり、津波が来ても何とかかなると思っている方もいるのではないか。発災時の状況を映像で見てもらえれば防災知識の向上につながると思う。次に、地域防災訓練にPTAや子ども会の方、一般住民の方などにたくさん参加してもらえるようSNSでの啓発や直接電話で呼びかけるなど周知してはどうか。続いて、地域防災リーダーによる放水訓練を子どもたちに見てもらい、実際に触れてもらえれば防災の関心が高ま

と思う。また、避難カードについて小中学校を通じて配布し、保護者に見てもらふことで子どもにも保護者にも関心を持ってもらえるのではないか。避難カードは配布するだけではなく、実際に記入してもらうことで防災意識の向上につながると思う。防災意識の向上に向けては地道に啓発活動に取り組むことが重要である。防災士による休日の出前講座の開催など啓発の機会を増やしてはどうか。いざというときに行動できるようになるために何度も訓練を重ね、体で覚えることが非常に重要であると思う。といった意見がありました。

第3回「防災・安全部会」では、防災力の高いまちをめざした取組や、防犯意識の高いまちをめざした取組について意見交換を行いました。ふだんからの備えなど区民の防災意識の向上に向け、どういった取組が効果的であるかや大阪防災アプリ、避難カード等の利用促進について、皆さんからのご意見をいただきたいと思います。

防災・安全部会からの報告は以上です。

○小川議長

ありがとうございます。

それでは各部会からの報告を踏まえて、部会を越えて委員の皆様で意見交換など、よろしく願います。ご意見のある方は挙手を願います。先ほど、また事務局のほうから説明があったとおり、なるべく多くの委員からご意見をいただきたいと思いますので、できる限り簡潔に願います。

○五十崎部会長

防災・安全部会の五十崎です。よろしく願います。

私は、はぐくみ・教育部会の「民間の塾事業者との連携に伴う課外授業への参加者増につながる取組について」ということでちょっと提案をさせていただきたいと思えます。私の知り合いに塾を営んでいる者がいまして、ちょっと聞きますと大東市の取組なんですけれども公益社団法人全国学習塾協会というのがあるらしいです。そこで大東市が全国で初めてじゃないかなということで委託を受けて、要するに学校の放

課後じゃなくて土曜日にそういう塾の形式をやっているということで、ある一定の学力の成果が上がっているという話を聞きました。そういった協会で、またそういう取組の内容とか参加者増につながる、そういうことが聞けるんじゃないかなと思ひまして、ちょっと情報提供させてもらいます。

もう1点あるんですけども、こちらは防災にも関わってくるんですけども子どもさんたちにちょっと関心を持ってもらうように何か最近メタバースということ。私、年寄りにはちょっとあんまり縁のないあれなんですけども実際、自分が仮想空間の中において自分が分身になって、アバターとなって防災でしたら仮想空間の中で自分の分身が避難訓練をするという、そういった体験型。そういうことが今子どもたちには人気になっていると、またそういうゲーム性を捉えて関心を持ってもらえるんじゃないかなと。それは防災に対しても、子ども教育に対してもやっぱり同じような共通になると思ひます。一応、そういった情報提供でございます。ありがとうございます。

○小川議長

ありがとうございます。この件に関して。

○藤原子育て支援・教育担当課長

すみません。子育て支援教育担当課長の藤原です。

先ほどの公益社団法人の情報ということで、大東市でやられてるということで情報ありがとうございます。ちょっとまだ具体的な中身は見れてないんですけども先ほどおっしゃっていただいた内容を基に参加者数の増を見ていきたいと思ひますので、どうも情報提供、ありがとうございます。よろしく願ひいたします。

○戸井防災安全担当課長

続きまして、防災安全担当課長の戸井と申します。

五十崎部会長、ありがとうございます。先ほども、この部会が始まる前に資料を見ながら説明を受けたところなんですけども。やっぱりこの部会の中でも防災意識を高めるために何が必要かということで言うと、啓発の中でも興味を持ってもらうこと

が大切だということが重要だという答えに至るんですけども、先ほどみたいに仮想空間とか、そういった民間の施設に出向いて行くというところまで私、行政の中ではなかなか見つけることができなくて、そういった情報交換ができるというか関係づくりというんですか。そういったところで行政の中でも何か生かしていけることがないかということで日々見つけていきたいなと思っておりますので、引き続きまた何かございましたら連携していただければと思います。ありがとうございます。

○小川議長

はい、ほかにご意見はないですか。

三木部会長、お願いします。

○三木部会長

まちづくりで一番大事なものは、やはり住んでくれる人が増えることで、2040年問題。どんどん人口が減ってくるという予想の中で、どういうふうにして住んでくれる人を確保するかというのが一番大事なんじゃないかなと思っているんですが。僕の考えでは、一つのアイデアでは未婚率も高くなってて地方では、お見合いパーティーとかそういうのを行政が中心になってやったりしてる事例もあるそうなんです。大阪市内といえども将来に備えて、地方都市がやっているような工夫を行政が主導でやられたらどうでしょうか。

以上です。

○小川議長

ありがとうございます。今のご意見。

○井平協働まちづくり課長

協働まちづくり課、井平です。ご意見ありがとうございます。

今のご意見に対して、すぐにちょっとどうこうという話はなかなか難しいですけど、そんなほかのところの状況などまた点検しながら区でできるかどうかも含めて、また考えていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○小川議長

茶谷委員、お願いします。

○茶谷委員

はぐくみ・教育部会の茶谷です。よろしくお願いします。

ちょっと予算を見せていただいてまして質問なんですけれども、新たな地域コミュニティ支援事業と豊かなコミュニティとマルチパートナーシップ等形成促進事業というのは、そもそもこれはどういう内容なのかというところと、あと住之江区で問題になってることを自分なりに調べたところ少子高齢化というところで、先ほどおっしゃられたような内容と同じなんですけれどもどんどん人口が住之江区内で減っているというところが何よりも問題だと思っています。そう考えたときに、まずこちらの事業に割り当てられている予算と、あと「すみのえ子ども子育て支援事業」32万円とか少子高齢化に向けた予算、そこをどうにかしないといけないというような予算というのは一体どれに当たるのか。どれぐらい、そこにかけられているのかというのがちょっとここから私が見てとることができなかつたので、もしそこが分かれば、ぜひ教えていただきたいです。

○井平協働まちづくり課長

ありがとうございます。協働まちづくり課長、井平です。

今のご質問の中で、まず新たな地域コミュニティ支援事業ですけど、これにつきましては、大阪市としては地域の活動は、地域が自主的に活発にいろんな活動をするこ
とで、地域なり大阪市全体がにぎわっていくという考え方で地域の自律化というのを支援しています。その中で、地域の中では地域活動協議会という協議会をつくって活動されているところに補助金の支援をしてまして。それプラス、その地域活動協議会が自律して運営していくための支援ということで会計であるとか、そういう団体さんの運営支援とか、あと担い手を探すための支援とか、そういうのをするために各区で中間支援組織まちづくりセンターというのをつくって支援をしております。そのまち

づくりセンターの委託事業のお金が新たな地域コミュニティ支援事業になります。

あと豊かなコミュニティとマルチパートナーシップ等形成促進事業といたすのは区全体でいろんなイベント等が活発に行われて、にぎやかになるために委託事業をしておりまして、現在は大阪市のコミュニティ協会の住之江区支部が受託しておりまして、具体的な事業名としては区民まつりであるとか、あと各種スポーツ大会の中で言うとマラソン大会。あとハイキングであるとか、1年間を通して様々なイベントをしていただいている事業内容になります。

最後に子育て、少子高齢化対策ということでは言われたんですけど具体的に少子高齢化の対策というのは区で具体的にやるのは難しいと思うんですけど。今言った地域の支援であるとか、イベント等の実施につきましても全体、地域の中がにぎやかになって魅力的なものになれば一定、人も住んでいただいたりとか、そういう対策にはなるのではないかなというふうには思っております。

○藤原子育て支援・教育担当課長

子育て支援・教育担当課長の藤原です。ご質問ありがとうございます。

「すみのえ子ども子育て支援事業」ということで、32万1,000円ということで計上しております。こちらのほうにつきましては「子育てマップ」ということで、子育て世帯に届ける情報の印刷等の情報誌「わいわい」とか、そういった情報誌用の経費になっております。子育て世帯の部分については、大阪市全体ではやはりひとり親助成とか子育ての保育の無償化であったり、そういった部分で子育てに対する費用的な負担を軽減するというようなところにつきましては大阪市トータル、あるいは全国的な内容で実施しているところがございます。住之江区としましては、子育てしやすい環境ということでこういった広報活動とか周知活動をすることによって、子育ての不安とか相談をしやすいハードルを区役所としていつでも相談してもらえるところにちょっと重点を置きながらやっていっているというところと、一方では先ほど申し上げましたように大阪市トータルで子育て世帯の負担を少しでも軽減していっ

て、子育てがしやすい環境をつくっていかうというような流れで進んでおります。

ちょっと補足のほうをお願いします。

○松本保健福祉課長

保健福祉課長の松本です。よろしくお願いします。

今、井平課長や藤原課長からも説明していただけてますけれども、大阪市全体として、国の方針で令和5年に「こども基本法」が施行され、それに基づいて各市町村でも「市町村こども計画」というのをつくっております。大阪市のほうでも安心して子どもを産み育てることができる環境の充実とか、妊娠前から子育て期までの切れ目ない支援を充実させるとか、多様なライフスタイルで子育てできる保育サービス等の充実など予算をつけて大阪市全体としてやってまして、それにひもづくところで区役所も連携してやっていくという状況があります。細かいことまでここで説明できませんけれども、また大阪市のホームページで「こども計画」と引いていただいたらいろいろな事業をやっているのが見れますので、よろしくお願いします。

○小川議長

はい、杉村委員、お願いします。

○杉村部会長

今日の会議の中で人口減のこととかも含めてたくさん出てたんで、はぐくみ部会でも出てました塾代助成の件、はぐくみ部会の中で話してたんですけど、40数%、50%行かないぐらいの利用率となっているのが今の現状ということで聞いてます。せっかくいい取組だと思いますし、所得制限もなくなったということが多分、周知できてないのかなと思うので。部会の中でもいろんな意見が出たんですけど、今日の会議の中で皆様からもご意見をいただけたらすごい助かるなと思いますし。東京都なんか018サポートと言って0歳から18歳まで子どもが今、5,000円ずっと国からもらっていると思うんですけど、あれが東京都は別で1人当たり数万円もらえるようになっているんですね。そういう意味では、お金のある自治体って結構子ども・子育

てに対してすごく手厚い支援、大阪市も手厚い支援、ほかの自治体に比べたら頂いていると思うんですけど、そういう意味ではこれから若い世代が、大阪市は土地も高いですけど、どうせ住むんやったら大阪市のほうがいいわとなって。僕らの会社の中の同僚世代もなってきたら、そういう意味では周知っていうところがすごい大事なのかなと思うので、いい取組をせっかくしてるけど利用率が低いというのはすごい悲しいことだと思うので、せっかくいい制度なのでなかなか周知ができてないというのがすごい課題だと思っています。すみません。ちょっと投げっ放しで申し訳ないんですけど、皆さんから良い意見を。

○小川議長

区役所からいいですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

杉村委員、ありがとうございます。子育て支援・教育担当課長の藤原です。

先ほどの塾代助成等の周知の部分ですね。こちらのほうにつきましては関係部局ということで、こども青少年局の管轄になるんですけどもそちらのほうにも既に前の部会でいただいた意見ということで手続きの簡素化であったり、周知ということで関係部局のほうにはご意見としてお伝えさせていただいているところですので、区役所としてもそういった利用率アップにつながるように周知・広報を強めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

○小川議長

ありがとうございます。

勝原委員、お願いします。

○勝原委員

こんばんは。はぐくみ・教育部会の勝原です。

今まで話した先ほど杉村部会長の話でやっぱりいつも私、言うんですけど発信が難しいと思うんですけど、私の子どもは住之江区で育ちまして、所帯を持って住之江

区を出ていきました。2人は他区、1人は地方にいます。住之江区へ、戻っておいでやと言うんですけど戻ってきません。他区では、孫が小学校2年生になったんですけども学校でこういう支援があるよっていうのを発信をしてくれるらしいんですよ、そこの小学校は。先ほど言うたような、何か塾の制度とか、そういったのが小学校から保護者宛てに発信をしてくれるみたいなことも言うてました。そんな感じで発信、難しいと思うんですけどもうちょっとどう言うんですかね。みんなで協力してこんな制度があるよ、こういうのがあるよというのをもっと子育て世代の親御さんに分かるようにしてもらいたいなとは思っています。私らもこういった会議をしてるいうの知らない人もたくさんいると思うんですよ。ネットワーク委員会では常に住之江連合では発信はしてるんですけども、そういったアピールも大事なんじゃないかなとは思っています。それと、こどもまつりがなくなったのは寂しいです。

はい、以上です。

○藤原子育て支援・教育担当課長

子育て支援・教育担当課長の藤原です。広報の部分ということでありがとうございます、ご意見。はぐくみ・教育部会でいただいたご意見で、チラシとか配ってもなかなか見ないとか。かばんの中に入ったままだとか、そういったご意見も頂戴いたしております。そういった意味からもチラシの配布も配布であるんですけどもチラシのホームページというのがございます。そちらでホームページにどんどん掲載させていただいて保護者の方がそこを見たら何の事業があるのかというのが分かりやすい方法で、今教育委員会のほうでもそういった形で進めておりますのでホームページでも検索できるような形で進めていきたいというふうに思います。ご意見、どうもありがとうございます。

○小川議長

三木部会長、お願いします。

○三木部会長

発信ということがありました。自信を持って自慢できる住之江区。自分が住んで、自分が仕事をしている住之江区のここがええんやというところをできれば部会で発信するものを具体的に区役所と一緒に考えて、力を入れてそこを発信するように。やっぱりほかの区にはない、他区にはないユニークな内容でないといけないと思うし、取組でないといけない。ほかの区と同じことを幾らやってもよくはない、効果はないと思います。

それともう一つは、やはり防災のほうでは他の区にない、ちょっと地盤が低い、土地が低い、津波に弱いとかいう弱点がほかの区にはない弱点なので、そこを津波になったら危ないからあそこら辺に住むのはやめようとかいう話になっても困るから、防災のほうでは津波対策、ほかの区にはないその弱点についてはもっともっと議論をして安心・安全な土地、対策がありますよというところをもっとアピールされたらいいと思います。ここに住み、先ほどおっしゃったように子どもさんたち3人とも出て行ってしまったということですが、いやいや、ここに住みたいと思われるような住之江区でなければ人口は減っていくだろうし。また、ここにおいでよと自信を持って、友達や仲間に言えるような。僕は、うちの職員に「遠くから通うんやったら北加賀屋に住んだらええねん」というふうに言ってるんですけども、そういうふうに「ここは、ええ町だよ」というふうに言えるように住之江区をやっぱり区と一緒につくっていか。具体的なセールスポイントを目標にして、つくっていく。例えば、南港ポートタウンは、ノーカーゾーンで、それはすごく安全で子育てにすごくいいんだとか、ほかの区にないチャームポイントですね。それが逆に不便やというようなことばかり言われるんですが、悪い、ネガティブな発信ではなくて、ネガティブだけど逆に取ればポジティブな、ウェルネスゾーン、歩く町とかね。そこに住んだら健康になる。車を使わないから健康になる町とかいうのを逆手に取ってもっとPRするとかいう。いろんな考え方、物の見方もあると思うので考えていかれたらどうでしょうか。

○井平協働まちづくり課長

協働まちづくり課長、井平です。ご意見ありがとうございます。

部会の中なのでご意見をいただきまして、区役所も頑張って発信はしているんですけどなかなかやっぱり十分ではないという状況はあると思います。発信の内容の話も今出ましたし、区役所が思いつかないようなユニークな情報であったりとかいうのは部会でまた、聞きながら考えていきたいと思えますし。

あと情報の発信の仕方ですね。発信するツールも限られたところがあるんですけど、そんなものをどういうふうに活用してやっていくかというのもまた引き続き、まちづくりのところでは部会でまた話をさせていただきたいなと思えます。意見をいただきましたように他の部会でもそういった意見が活発になっていけばいいかなと思えますので、よろしく願いいたします。

○小川議長

なかなか発信って難しいと思うんですけど、ポートタウン東、実はバスがめっちゃ便利で三宮まで1本で走ってますかね。堺東とか堺まで1本とか。15分ぐらいで堺に行けるので。関空まで行けますし、実は便利で。多分、皆さんは知らなくて、三宮からバスに乗ったら大体、僕ら夫婦二人とかU S Jでみんな降りてる。ポートタウン東ですと言うたら、バスの運転手に驚かれるような、多分みんな知らんのやろうと思うんですけど、発信力というのは難しいなということ。先ほど、聞いていたらやっぱり東京の話も出ましたけど多分パイの取り合いなんです。子どもたちとか、保護者の取り合いなので結局はどういう魅力があるかという、向こうのほうを選べるので選ぶときにちゃんと引っかかるようにというのは多分、三木部会長がおっしゃられたとおりのことだと思うんで、まちづくりもそうですし、教育もそうですし、防災もそうだと思うんで皆さんは知らないところ、僕はバスの話をしたんですけど知らなかったと思うんで、小さいことですけどもちょっと町のことをアピールしながら発信できたらなと今、思いました。

ほかに何か、ご意見がありましたらお願いします。

はい、高田委員、お願いします。

○高田委員

すこやか・まちづくり部会の高田です。

ちょっと今、その話を聞きながら思ったんですけど、やり方は昭和かもしれないですけどね。またニュータウンみたいな、そういう特区みたいなのがあってもいいんじゃないかなと思いました。若い人が集まるような、若い人に住んでもらう。そこで子育てもしてもらおうというような、そういう特区みたいなのをつくと何ですかね。ちょっと一目置かれるでしょうし、何か公団造ったらもうけになる、そうじゃなくて。やっぱり時代に合わせたネットワークも当然あれですし電気の町って言ったらあれですけどトヨタがやってるようなそういった未来の町というのも含めながら若い人が集まれる。そういう何て言うんですか、特区みたいなのができると今、僕も身近に近所に土地が空いたら何か建つんですけど、やっぱりちっちゃい家とか、ちっちゃいハイツとかが建つんですね。結局そこに住むのはひとり暮らしの人とか、あんまり地域に関わらないような、若過ぎるんですけど、やっぱりもうそこから何ですかね。ある程度時間がたったらまた出てってしまうっていうような、そんな人ばかりが集まってきてる感じがしてます。だからそこへ、より子どもも一緒に行けるよというような、何かそういった町というか。子ども会がどんどん減ってる中でもやっぱり子ども会を復活させようとか、それぐらいの何か気合で特区ができると、ちょっと一目置かれた、そういった若い人もちょっと行ってみようかな、住んでみようかなというのができたらいいなと、ちょっと思いました。

○小川議長

今の特区の話。

○井平協働まちづくり課長

協働まちづくり課長、井平です。あまり詳しくはないんですけど特区的なことと言えますと、やはり区役所単独ではなかなか難しいところがあって、大阪市全体で関係局

を巻き込む形になると思いますので、いただいたご意見を踏まえて、そういうふう
動いていけるかどうか分からないですけど、そういったことも中では考えていければ
と思いますので、またご意見をいただければと思います。

○小川議長

一応、住之江区も特区になってますよね。多分知らないかもしれないですけど「咲
洲ウェルネスタウン計画」というので、特区にはなってると思います。

○玉置副区長

すみません。住之江区役所副区長の玉置と申します。

今のお話のことでちょっと補足だけさせていただければと思っております。今、議
長のほうからもありましたけどウェルネスタウン計画というのは以前からありますと
いうことで。それに基づきまして、水都国際中高一貫校、全国初の。あるいは小中一
貫校とか、そういうことで先進的な教育的というようなことが柱の一つにもありまし
たので、そういうこともつくったりしているところでございます。

あと、大阪市の大きな流れで言いますと今、これはまだこれから始まろうとしてい
るところなんですけど今皆様、ご存じのとおり大阪というのはキタとミナミというのは
すごく皆さん、誰もが知っておられるような大きなポイントになるような町がありま
すけれども、東西に関する地区を強化していこうということでヒガシ、城東区、大阪
城辺りであるとか、この住之江区でいいましたらニシ、夢洲あるいは咲洲、港区、大
正区の辺りですね。このちょうどベイエリアの辺り、此花区も含めてになりますけれ
どもここがですね、アフター万博も含めて、そのベイエリアのところをニシというふ
うな形で認知していただけるような新たなコンセプトによるまちづくりというのを今、
進めようと大阪市全体でも着手をし始めておりまして、私ども住之江区もその一翼、
一つというふうになっているところでございますので、ちょっとその点は補足という
ことでさせていただきます。以上でございます。

○小川議長

南港に来ていただいた方、子どもがやっぱり増えてますよね。小中一貫校・水都国際は。水都国際で言うと金髪の子たちがいっぱいいます。自由なんです。やっぱり学校に力を入れたら親ってそういうところを見てるんで、かなり遠いところからも来るみたいですけど。住んでいるわけではないですけど、やっぱりそういうのはすごいなというのは僕らは肌で感じています。

○勝原委員

南港にきれいな建物がいっぱいあるのは売りにしたらいいと思う。きれいやん。

○小川議長

多分あれですよ。これから I R とか始まるから、そういうところでも多分住むところとして働き手が住むところとして注目はされているみたいで。港区の方とか住之江区で働き手の取り合いをするみたいで、そんな僕ら地元においてたらそんなうわさもありますし。働く方が 1 万人以上要るといふことがあるので、そういう方たちが住むというの也被われてますね。

はい。どうぞ。茶谷委員、お願いします。

○茶谷委員

A T C、この前本当に久しぶりに 3 日前に A T C に行きまして、A T C の奥のあれ何ですかね。あそこはどうなっているんですか。もう何か、昔あったものが全然なくなって 2 階、3 階以上 5 階ぐらいかな、以上先は何も入ってないみたいで、ゴーストエリアみたいになってて、ここって一体この先どうなるんだろうとか、ちょっと久しぶりに行ってちょっと唖然としたんですけども。新たに変わってて子どもの遊び場ができてて、あれはすごくいい取組だと思いますし。うちの娘ですら知らなくて、他区の人から教えてもらって「こんないいところがあるよ」って言われたというぐらいだったので。それこそ、ああいうのを発信してもっと誘致できたらいいなと思いますし。とにかく子どもたちとか、皆さんが住之江区はいいところやなと思って、来てもらえるような取組がもっとできたらいいなと思いました。

○小川議長

ほかにご意見ありますか。

はい、三木部会長、お願いします。

○三木部会長

区役所がA T Cに移転したらどうですか。

○小川議長

そんな話、ありましたね。オスカーに移転という話ありましたね。

○三木部会長

区役所がA T Cに移転して、ここは大きなマンションを建てるという計画があったようですね。

○来馬 I C T ・企画担当課長

I C T ・企画担当課長の来馬です。

即答はできませんが、ご意見としていただきます。ありがとうございます。

○小川議長

中川委員、お願いします。

○中川委員

私もポートタウンに住んでいます。ありがとうございます。私も議長もポートタウンに住んでおります。ポートタウンの中には一応、小中一貫もあり、中高一貫もあり、大学もあるという町なんですけど子どもたち大分減ってきてます。お年寄りが増えているような町になってきてますけど。この間も地域交流会で、中高一貫の方が一応、お祭りプロジェクトをつくってましてね。それがこの間14日の日に、そのお祭りプロジェクトが中心になって、お祭りをしました。一応、子どもまつりみたいなもんですけど割と盛況で、今回は一応連合町会が協力して盛り上げてやったんですけど。これからもできたらいいなと思って、その新しい担い手として小中一貫の方がしてもらえるとありがたいと思います。

以上です。

○小川議長

多分、中高一貫の方とか、あとは大学生とかで学生町会をつくっている。学生さんたちで町会をつくっている。

○中川委員

大学生のほうは、あっちの花の町とかあの辺を中心に行ってるんですが、海のまちは初めて中高一貫の方が中心になられてお祭りをしたという。今後も続けていこうという形でみんな協力してやるように、新しい担い手としてやってもらおうと。地域交流会でいろいろありましたね。だからそのプロジェクトの一つとして、同じところにおるんやったら一緒にやりましょうよという形で盛り上げて、新しい担い手として。年寄りばかりなんでね、ちょっと若い子にも来ていただいて実行させていただきました。

○三木部会長

海外みたいにね、大学のある町は大学の教員が住む、レジデントがあったりマンション、ドミトリー、寮があったり、学生寮があったり。住んでもらわないとあかんわね。やっぱり住んでもらって、学生はやっぱり卒業していくんだけど次から次へ新しい学生が入ってきてくれたら人口は保たれるし、もうちょっとこう住んでもらえるような環境づくりをポートタウンにつくったらいいんじゃないかなと思います。

○小川議長

ありがとうございます。

まちづくりとかの子ども話になっているんですけど、防災のほうで何かあれば、ご意見ありますか。

茶谷委員、お願いします。

○茶谷委員

防災とか災害のほうではなくて防犯のほうをちょっと聞きたかったんですけど。最

近の犯罪、治安ですかね。犯罪の減少傾向にあるのか、こういった傾向にあるのかということと。

あと前回、私は違う部会にいたんですけどそのときに自動販売機に防犯カメラを設置するという話があったと思うんですが、それがその後どうなったのかということと、その防犯という意味で住之江区の取組がどういうところにあるのかということをお伺いしたいです。

○戸井防災安全担当課長

防災安全担当課長の戸井と申します。ご意見ありがとうございます。

まず最初に防犯のところでございますけれども、実績としましては19ページをご覧ください。今6年度の実績にはなるんですけど、街頭犯罪発生件数ということで634となっております。

あと自動販売機の件です。先ほど、おっしゃってましたけれども「みまもり自動販売機」というのが今、住之江区に2件ほどございまして護国神社とコスモスクエアのほうの西尾レントオールの歩道橋の辺に1件ございまして、そちらのほうに設置してございます。

○茶谷委員

護国神社の中ですか。

○戸井防災安全担当課長

中ですね。基本的に民間施設の中に今、設置しているということになっています。すみません。追加で、建設局において公園の中にそういった自動販売機を設置しているところもございます。

○中川委員

すみません。公園の自動販売機のところにカメラがついてる。あれは契約期限が来たから撤去になっていると聞いているが。

○玉置副区長

すみません。失礼いたします。副区長の玉置でございます。

今、委員がおっしゃっておられることで私のほうも局の事業でありますけれども聞いてございます。ちょっと今請け負っておられる事業者の方が辞退されるということ
で急遽、撤去みたいな形にはなるんですが。ただ、局のほうは再募集するというよう
なことでそういうふうな状況であるというふう聞いてございます。

○小川議長

ありがとうございます。ほか何か、ご意見ありましたらお願いします。

はい、太郎良委員、お願いします。

○太郎良委員

防災・安全部会の太郎良です。よろしくお願いします。

すこやか・まちづくり部会さんのテーマの中なんですけども行事に新たな人に参加
してもらおう工夫というところなんですけども。まずは学校であったりとか、地域でイ
ベントに来てくれているお父さん、お母さんですけどもこちらのほうに地道に声かけ
をしてみる。もしくは、ちょっとしたことの手伝いをしてもらって、そこから関わる
とかしているうちに入ってもらって、無理のない程度にやってもらいながら少しずつ
入ってきてもらうような形で、後で運営サイドのほうに入ってきてもらうような感じ
で少しずつですけれども、時間はかかりますけれども長期間、皆さん住まわれている
ので何かしら皆さんと関わる中での行事ごとにも参加しつつ、運営サイドに入っても
らうような形で進めていけば、定着してやっていけるんじゃないかなと思います。

○小川議長

はい、今の意見に対して。

谷本委員、お願いします。

○谷本委員

すみません。すこやか・まちづくりの谷本です。

今、おっしゃっていた学校行事とか、お祭りとかそういうので参加している保護者

の方とおっしゃっていたんですけど。すみません、そういう保護者の方たちはもう既にPTAとか、そういうので役職を担っていたりする方が多くて。もう既に関わっている方がほとんどなんですね。そういうPTAの方もなかなか次の人を探すのが大変とかで、もう私の子どもたちが小さいときから抽選だったりとか、そういうので仕方なくというふうになってたりとか。うちの住吉川小学校だったら、もうPTAの委員会というのがもう成り立たなくなったので、もう委員会自体を辞めて執行委員という形で、できる人ができることをやるというような形にもう10年以上前から変わっていて。そんな感じでいろいろ変わってきているので、今イベントに参加している方はもうかなり関わってくれてる方かなと思うので、そこをさらに踏み込んでもっと住之江区の魅力を伝えるためにはどういったことをしたらいいのかというので、もうちょっと今関わりがないような方たち、ここに書いてあるんですけど、それこそもう高校生とか大学生とか社会人であるとかいう若者の方たちに参加して、何か住之江区のためになるようなイベントとかをやって盛り上げられないかという話がこの間、出ていました。そういうのを実現するためには何をしたらいいかというのをこれから住之江区の方と考えると、実施できるような状況にできたらいいなというふうに私は思っています。

あと、すみません。防災のことがちょっと私一つ気になることがあったんですけど、街灯で白色と橙色の違いは何なのでしょう。すごい白くて分かりやすい街灯と、オレンジ色の街灯があってオレンジ色って結構暗いんですよね。白いやつの方が周りがよく見えるんですけど、でも結構オレンジ色も見るとは思いますがあれはやっぱり替えられないというか、何か理由があってオレンジ色だったりするのでしょうか。

○小川議長

多分、つけているときの年度もあるんじゃない。街灯のほんまの電柱とかついているやつは建設局とか、ここやったら港湾局のほうかな。もあるんですけど、多分そんな統一性はないかも分からないです。僕らやったら管理組合がつけているので、1個だ

け青い街灯にしたら犯罪率が減るということで青くしたりとかやっているんですけど、多分どこもそんなに統一はしてないし、水銀灯とLEDでまた違うと思うので、結構難しいかも分からない。

○谷本委員

うちの前はオレンジなので、もうちょっと明るいのに替えてほしいな。

○小川議長

一回、どこの所属か、持ち物なのか調べてみてください。

先ほど言われた太郎良委員の話は、多分敷居を低くって僕もよく町で言うんですけど、敷居を低くして入っていただいてからいろんなことをやっていただくって、多分どこの町も一緒に、子ども会のPTAも多分全て一緒に。今、出てきていらっしゃる方は皆さん同じようなことを経験されてるかなと思います。さらにステップアップってすごい難しいと僕も自分で感じてまして、そういうところに出てきていただけない、そもそも。先ほどあった中川委員が言ってたような中学生とか高校生、大学生、会社員が入ってくれるというのはやっぱりすごい魅力だと思うんで、僕たちの子ども会の行事はもう大学生が率先して、校庭キャンプであったりとか、そういうの全部やってくれてたりするので、そういう関わりはすごい大事かなと思います。

太郎良委員、今のお話で。

○太郎良委員

高校生・大学生・中学生っていうのはですね。青年部という形にして、まず祭りのときは1ブースを任せてしまうというのも一つの考えとして。そこから経験した中になったときに自分自身もこんなことができるんだという自信をつけてもらうのも一つなのかなと。そういうことで地域の活性化ができないかなと。

○杉村部会長

多分、太郎良委員が言うてるのは清江でもう実施しているんです。清江のお祭りとかで予算も全部子どもにつけて、全部子どもに任せて、子どもで1ブース全部任せて

やらせているということで、そうすると子どもに自覚も持ちますし、また親というか大人が入らずに子どもだけで全部決められるので楽しみも覚えて、子どもが参加する。青年部という組織がしっかり固まってくるというのは、清江でうまいこと回り始めているので、そういう意味ではそういう取組というのは今さっき委員からもお話をあつた若い子を呼び込むという意味では、大人が入って大人が何か意見するというんじゃなくて子どもに全部お金だけ渡して後は任せる、イベントを全部やってるんでその中で子どもは一つのブースをちゃんと自分で成立させてねというのほうまくいき始める成功事例として、多分太郎良委員が言いたかったことだと思います。

○勝原委員

住之江連合の青年部も昔から地活からちゃんと予算を出してる。

○杉村部会長

自分たちでやるほうが楽しいですね。

○小川議長

僕たちも一緒に、青少年指導員やってるんですけど、そこの焼そばを焼くのを高校生にもやらせてますけど、すごい楽しそうです。すごい誉めてあげるんですけど。

「むちゃくちゃおいしい」と言ってあげる。毎年来ます。

はい。高田委員、お願いします。

○高田委員

元区PTA会長からもちょっと思うところがあるんですけど。実は、ちょっとここ最近、区PTAから抜けるという小学校さんが出てきていますので、やっぱりちょっとここはゆゆしき問題だなと思ってます。やっぱり人口が減る、お子さんが減る。関心のあるお父さん、お母さんはほんまに来てくれます。やっぱりちゃんとお手伝いをしてくれるんですけど本当にありがたい。また、そこのお兄ちゃん、お姉ちゃんまで連れてきて、それこそ一緒に手伝ってもらおうというのはあります。何かもう家族ぐるみなのかなという気もするんですけど、でもその中でやっぱりだんだんとPTA

って何やってるのというふうなことでなかなか知られてない。先ほども言いましたけどもくじ引でやったりとか、そんなんで決めるしかないという状態はもう本当に切実な状態ではあるんです。その中で、小学校とかが抜けていくとかなってくると、清江さんのこととなると、やっぱりこの区PTAで何かやろうといったときの会議とか、そういったところのより所になるだろう。実は、こどもまつりがなくなったのはちょっと気候の問題もあるんですけども、やっぱりお手伝いするとなったときに結局、PTAのところちょっと負担がやっぱり出てたんですよね。だから、そういうのも加味しながら、それでも来てくれる人には本当にありがとうございますし、それでもやっぱり来てほしいなというところは、もうどうやったらいいのかな。もう地道に声をかけていくしかないんですけど。でも、そこでちょっと先ほどの清江さんのいいやり方とかいうのはむしろ取り組んでもいいかなとも思いますし、そういったところって本当に地盤じゃないですか、まちづくりのね。そこをちょっとうまく何か、それこそ後押しもありながら僕らもちょっと気持ちよくできる、楽しくできるというところをもっと見せていただけたらいいんじゃないかなと思っています。すみません。

○小川議長

はい、茶谷委員、お願いします。

○茶谷委員

今までのお話を聞いてて、参加したことのない人を呼び込んだり、青年局とかつくるというので、来てもらう理由の一つとして防災にもつながるんですけども、地域の横のつながりをつくっておくことで、やっぱり有事のときに必ず全く知らない孤立した家よりも地域と、社会と何かしらの関わりを持っていたら。やっぱり何か実際に住之江区というのは非常に危険な地域でもありますし。そういうことを何か想像、さっきのビデオとか写真で見せるというのと同じ、つながるんですけど想像させる。口で言うだけではなかなか伝わらないので、実際にこういうときに、こういうことをやってたら、こういういいことがあるんだよというのをより明確に何かイメージできる

ような発信の仕方というのをやっていかないといけない。それをやることによって参加してくれる人が、それやったら確かに参加してみようかな、ちょっとしたことからというような形で気持ちも変わってくるのかなと思うので、そういう周知の部分で強くしていただきたいというところと。

あと一つ、ちょっと聞いたかったのが街路樹とか電灯の問題なんですけれども、さっき谷本委員から出たその色とかではなくて、最近ニュースで街路樹が倒れてきて危険というような問題が多々出てきてると思うんですけど、住之江区内でそういう危険な地域があるのか、ないのか。もし分かれば教えていただきたいです。

○井平協働まちづくり課長

最後の街路樹の話なんですけど、街路樹に関しては建設局の公園事務所が基本担当しています。港湾エリアは港湾局がやるんですけど、いろんな事故を受けて建設局も倒れそうな木、高木であったりとか、そういうのは植え替えていくという形で順次やっていますので、今現在、住之江区でここが危険だということはないと思っていますし、計画的に植え替えであるとか手入れというのはやっているというふうに聞いておりますので、そこは大丈夫かなと思います。もし何か、危なそうなどいうところがあれば言っていただいたらまた建設局に話をしていきます。よろしくお願いします。

○小川議長

貴重なご意見、誠にありがとうございます。ちょっと時間となっておりますので、何かご意見がある方がいらっしゃいましたら、お願いします。

はい、山中委員、お願いします。

○山中委員

防災・安全部会の山中です。ちょっと地域の運営や取組事業、行事ごとについてのことなんですけど。これは、ちょっと何て言うか、疑問に思ったことなんですけど。この地域の運営とか取組に関してのことなんですけど、これって住之江区内の、住之江区に住んでいる人じゃないとだめなものなんじゃないでしょうか。これはなぜかと言いますと、

他の区の人とか本当に他府県の人とか極端な話、にも来てもらってやりたいと言う人って、多分いてるはずだと思うんですよ。いや、でも住之江区民ちゃうからだめというので、何か。来てやってもらったがゆえに、ここすごくいいことやってる。今度こっちに引っ越して、ここら辺に住みたいと思う方もいらっしゃるかもしれないじゃないですか。

これ何で、そう思ったかと言いますと、これ僕の町会の話になってくるんですけど町会で餅つきやってます。ちょっと人がいないというので、つき手がいない。餅つき、いっぱいつきたいけど男の人があんまりいないという話だったんで、じゃ僕、「知っている人、つき手、こういうのやってるんでどうですかって発信したら多分やりたいという人がめっちゃ来ますよ」と言うたけど、「いや、でも町会の人でないとあかん、あかん」と言われたんですよ。いや、でもそれ矛盾してますやん、って。つき手がおらへん。でも何か町会じゃないとあかん。どうしたらいいっていう話ですよ。で、ほんまに住之江区民じゃないとあかんとか、その区切りがちょっとよく分からなくて。別に、やりたいと言うてる人が他府県であろうが何であろうが、外国人であろうが別にいいかなって思うんですけど、これどう思います、皆さん。

○太郎良委員

私自身も住之江区民ではなく、元住之江在住でした。今、やってます青少年指導員に関しましては、住之江区に在住・在勤ということであります。でも何かしらに参加するに当たっては別に単位関係なくて、協力してくれてる人たちはしてくれたらいいんじゃないかなと私は思います。

○小川議長

その町会単位のところもあると思いますし、多分町会、僕らも町会長をやってますけど、町会費を集金して、そのお金で運営しているという多分がちがちなところの意見で言うと、そういうところになるのかなと思うんですけど、そこは僕全然ね。僕はウェルカムでやりますけど、ありがたいんでね。どんどん来てほしいんですけど、

多分そこはちょっともしかしたら個別の単位によるかなと、地活協の単位によるかなと思いました。

時間のほうも制約がありますので、ご意見・ご質問は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

それではここで、アドバイザーでお越しいただいております議員の方々より本日の議題や全体委員からご意見につきまして、一言ずつご助言やご意見をいただきたいと思えます。

片山市会議員から順番にお願いいたします。

○片山市会議員

片山です。お疲れさまでした。

先ほど、このA3の資料を見せていただきますと住之江区の予算の中で皆様のご意見がどういうところに反映しているかということはこの色で示されているわけなんですけど。今回のこの会議の意義というのはこういうところにあるのかな。結局、区長が今回の予算を考える上で、皆様のご意見を聴きながらつくってきた今回の予算になったということでございます。そういう意味では、皆様にここまでよくやっていただいてということで、この後住之江区がやってきたことの報告とか検証をしていこうというのが今回の会議の目的というふうに思っております。

しかしながら4億もあるのかと皆さん、思われるかと分かりませんが、ほとんど4億のうちこの庁舎の関係とかの人件費ばかりで、区長が自由になるお金というのはほとんどないというのがこれまででございます。しかしながら、藤井区長はよく頑張っていておまして、お金をかけずしていかに行政の活動とか実現するのかと。よくやられているのは元銀行マンということもありまして、民間の企業をたくさんお廻りいただいて、たくさんの企業からネットワークを組んで、民間の力を引き出してこの行政あるいは住民の方々にいろんなことをやっていただこう。例えば、食品ロスの問題なんかもこの間やっていただきまして、卵が大量に余ると、倉庫で余るらしい

ですね。それを子ども食堂の中に定期的に提供していこうということはこの住之江区長がやられまして。僕が最初にその話を質疑させていただきましたが、先ほども言っていましたように違う財政・総務委員会の中で物すごく誉められていたといううわさを聞きましたですけれども。僕はまだ検証していないので分かりませんが、そういううわさも聞きまして。そういう意味で言うと、お金をかけずしてやるやり方も十分あるということでございます。

先ほど、ちょっと中で出てた一番心配しているのは住民自治というか、自治会の力が落ちてきた、あるいはPTAの力が落ちてきた。それはやっぱり何て言うのかな。やっぱりこういうことに参加しなければならないという意識がなかなか行かないのかな。この間でも市会で議論になりましたのはね。大和川の水防の組合委員、これは住之江区のどちらかという大和川沿いの地域の方々によるんですけど、水防団員になっていただいたら日当がちょっと出るんです。日当とか出て、防災訓練とかそんなことをやるわけなんですけど、土のうに砂を入れたりするんですけど実際大和川があふれそうになったときに土のうをこれから積んでやるような仕事をやっている場合ではないと、私は思っております。何をすべきかと言うと、「これから川が危ないよ、おばあちゃんも早く逃げないとあかんよ」と、これをやっぱり水防団員の方々が、地域にいらっしゃる方々がみんなで助け合っていかなければならない。これを行政区が頑張る、あるいは消防署が頑張る。いやいや、そんな数到底皆さんに行き届かないので、それはもう住民自治というか皆さんで、みんなで助け合わなければならない仕事でございますね。これが今、充足率74%ということで、本当は100%ないとあかんののに74%しか入っていただけてない。もう今回の議会でも住之江区長に何とか住之江は水防団、100%をめざして入ってもらおうようにもう住之江区長に頑張ってくださいと、この間も言うておりましたね。そういう、なかなかお金は、予算をかけることはできないですけど、そのような工夫をこれからもやっていただきたいと思います。

それを皆さんでやっぱりこういう点はどうだろうとか、いろんなアイデアをこのよ
うな会議で言っていただくことがいいのかなと思いました。今回、予算もできてまい
りましたので、たくさんご協力いただきまして、ありがとうございます。また、今
後ともよろしく申し上げます。ありがとうございます。

○小川議長

ありがとうございました。

次に、岸本議員、お願いいたします。

○岸本市会議員

お疲れさまでした。様々活発なご意見をいただきまして、私も参考にさせていただ
くことができます。ありがとうございます。

情報発信というテーマで様々ご議論いただいたと思うんですけども、私もこの1
週間で同じ内容の相談が2件ありまして。いわゆる緊急通報システムなんですけれど
も高齢者のおひとり暮らしの方が、いざ、自宅で倒れたときにそのまま孤独死してし
まう可能性もあるから、この場合どうしたらええやろ。ほかの自治体だったら何かボ
タンを押したらつながるような、そういうのがあるから大阪市でもやってほしいとい
う相談を受けたんですけど。いや、大阪市もありますよということですね。緊急通報シ
ステムというのがあるって、首からペンダントのように下げて、そのボタンを押したら
つながったりとか。今ではスマホのような形のもので、ひもを引っ張ったらつながる
よとか、そういうのもあるので。やっぱり大阪市としても様々いい事業とかシステム
とかは構築はしていただいているんですけども、それを知っている人があまりにも
少な過ぎるなというのが。やっぱり、そういうところ情報もある程度発信はしてい
ただいているんですけどもそれが全く届き切っていないというところがもどかしいと
ころなんです。だからこれを大阪市としてもそうですし、住之江区としてもやっぱ
りこんなことをやっているというのをいかに一人一人の市民・区民に届けていくのか
というのをやっぱり私自身も皆様と共に今後とも一生懸命、考えていきたいなという

ふうにした次第でございます。

情報発信ということ言えば、3月26日からまた住之江区でもいよいよAIのオンデマンドバスの実証実験が始まります。これもやっぱりしっかりと情報発信していかないといけないですし。どういうふうになれば乗れるのかということもしっかりと周知していかねばいけないというふうに思います。ただ単にバス停で立っただけでバスが来るんかって、来ませんのでね。予約を入れないといけませんので、そういったところからもしっかりと情報発信して行って、実証実験なので多くの方に使っていただいて、乗っていただかないといけませんので。そうすることによって、今設定されているバス停ももっとここにあったらいいのにな、ああいうところにあったらいいのになというお声が、それはしっかり届くようなシステムになってますので。例えば、ご自身のご自宅の前に、ここにバス停があったらいいのになと、利用する人が多かったらそこにバス停ができたりとかもします。そういったことで、どんどん情報発信していただければと思いますし。

あと4月1日からは自転車の青切符がスタートしますので、これもよく皆さん、勘違いされてよく聞かれるのが4月1日から交通ルールが厳しくなるというふうに言われる方がいらっしゃるんですけど、ルール自体は変わらないですね。今も厳しいのは厳しいです。4月1日から青切符になるということなので、それもしっかりと周知・徹底していかなあかんのかなというふうに感じた次第でございます。

あとは余談ですけど、先ほど防犯灯の白色とオレンジ色の、というお話があって、これ諸説あるとは思いますが。私が聞いた限りでは、白色の防犯というか街灯は、はっきり人の顔が見えるんだけどその近くしか見えへんと。オレンジ色の場合は、はっきりとは顔は見えへんけれども遠くのほうに人がいるのが分かるということで、誰かがいるというのが分かるのがオレンジ色のほうが遠くまで見えると。はっきりとした顔が見えるのは、白色やったら顔まではっきり見えるけれども近くに来ると分からへんという、そういう説明は聞いたことがあったので。これも本当かどうか分か

りませんけれども、私が初めて議員になったときにそういう相談があって、役所の人に聞いたらそういう説明でしたので余談ですけれどもご報告させていただければというふうに思いました。

本日は、どうもありがとうございました。

○小川議長

ありがとうございました。

次に、木村議員、お願いいたします。

○木村市会議員

お疲れさまでございます。私も小学校の子どもがおりますので、塾代助成事業の広報についてなんですけれども、大阪市の小学校に通っている子どもを持つ保護者というのは「ミマモルメ」というアプリに全員入っていただいています。ここをちょっと使いたいなっていうのを思いました。

あと南港の話なんですけど、これまだ全然決まってないんですけど一応、大阪市としてeスポーツを誘致していこうという動きがありまして。今はまだ、どういう施設を造ろうとか、こういう大会をしていこうとかいうのを話し合っております。もし、実際にどこの場所がいいかとなった場合は、今でも私言っているんですけど、住之江区は南港があります。ATCがあるんですって。あそこはやっぱり私は活用してほしいです。なのでeスポーツを持ってこれたらいいなって思ってます。

あと個人的には、キッザニアが入ったらいいなと。子どもが増えて、喜ぶなとか。いろいろ考えております。

岸本先生のほうからオンデマンドバスの話があったんですけど、ぜひ使っていただきたいです。住之江区内だったら、どこまで乗っても210円ですので、ぜひ活用していただきたいと思います。これもちょっと南港になってしまうんですけど、ポートタウンですね。中を走るものだと思っていたら、今のところ外周なんですね。あれだけ広い敷地があって、外周というのはちょっと私、これどうかなと思っているん

です。ずっと走るバスでもないので、予約して呼んだら来てくれるというバスになるので、そんなにノーカーゾーンの中を走ったとしても予約があったときだけなので不愉快な思いをさせないかなと思うんですけども、その辺もちょっと住之江区長のほうにも頑張ってもらっているということなので、市会のほうと一緒にできるだけ皆様が住みやすいまちづくりをめざして頑張っていきたいと思いますので、本日は貴重なご意見、ありがとうございました。

○小川議長

ありがとうございました。

以上で議事を終わります。皆様方には、議事進行にご協力をいただき誠にありがとうございました。

それでは事務局へお返しします。

○岸田ICT・企画担当課長代理

小川議長、ありがとうございました。

それでは最後に、藤井区長からご挨拶をお願いいたします。

○藤井区長

本日も長時間にわたって貴重なご意見、活発なディスカッションをいただきまして、どうもありがとうございました。

今日、出ていた話の中ですごく印象的なのが、やっぱりまず広報とか発信力ということで強めていかなければいけないと改めて思いました。区役所だけが広報を頑張るんじゃなくて、例えば、民間企業にももっと広報を頑張ってもらうように私は強く背中を押すということも併せてやりたいというふうに思いました。

ちょっと話は替わりますが、先ほど先生方からAIオンデマンドバスの話があったんですけど、これってすごく24区で走りますけれども町の力が結構示されるかなというふうに思っています。北区とか中央区とかは、極論ほっといても結構乗ると思うんですけど此花区とか住之江区は、いい意味でちょっと危機感を持っております。

利用があまり進まない、いつまでもこれずっと走ってくれるかどうか分からない実証実験なので。ただ、先ほど先生方からあったとおり210円で住之江区の端から端まで行けるって結構すごいことだと思います。ただ、ちょっと条件付で朝9時から夜7時までという、ちょっと通勤には使いづらいとか、飲んだ後は使いづらいとかなんですけど、どんどん意見をぶつけていけばいいんじゃないかと思っています。先ほど、木村先生からもありましたとおり、何でポートタウンの中を走らないんだと、私はふんぷん怒っておるんですけど。ただ、やっぱり最初のスタートはどうしても関係各局、大阪府警とか警察とかを含めてスタートはやっぱりちょっと外周のバス停6か所ぐらいだったかな、4つ聞いてたけど見たら6か所ぐらいあったと思うんですけど、外にバス停を設けるところから始めさせてくれということだったので、何でタクシーを入れて乗合バスが駄目なのか、私はいまだに理解できてないんですけど。そうやって、いや、もっと中を走ったほうが乗車が伸びるんですというのを地域の声として、どんどん利用して、声をどんどん上げて、ぶつけていくというのが必要なのかなというふうに思っています。

今日の議論の中で、特区の話とかが出てきたんですけど、スーパーシティ特区が大阪で、夢洲とうめきたが指定されてるんですけど、今後さらなる追加で、ちょっと不確かな情報なので私も精査しようと思うんですけど、難波とか森ノ宮とか、あと何か咲洲も候補の一つだということも聞いたこともありまして。スーパーシティって何かと言うと、いわゆるAIとかビッグデータ等の先端技術を活用したまちづくりということで、まさにAIオンデマンドバスってそうなんです。AIの力で、アプリで予約した人を最短コースをAIが弾き出して。無人運転じゃないんですけど、有人なんですけど最短コースをAIが弾き出してくれる。ただ時間ぴったりというわけにいかなくて、10分から15分の誤差の中でたどり着けるようにAIが弾いてくれたコースを走りますよと。なので、これもスーパーシティの一つの取組といえ取組なので、住之江区の乗降客が少ないということがないように、そこは区役所も頑張って広報し

ますし、ここにいらっしゃる皆さんもご協力いただいて、よい口コミを広げて、ぜひ利用率を上げていきたいなというふうに思います。そういう意味で広報は本当に大事ななというふうに思いました。「さざんか」も大事ですし、「さざんか」はあまりお読みにならない若い方とかにもSNSとかで届いていく仕組みというの也需要ですし、もちろんオオサカメトロから発信して広報を頑張ってもらおうというのも含めて。

あと、あれですね、4月から一応無人運転バスの、オンデマンドバスとはちょっと違うんですけど無人運転のバスも住之江公園の車庫から住吉車庫まで走り出しますよという広報がメトロからありました。ただ、いきなり無人のバスが走るわけではなくて有人から始めて、人を乗せずに走って秋ぐらいから試し試しやっていくというような。それは、住之江公園と住吉車庫という2つの車庫が非常に近くて、途中で何か起きたときにすぐ駆けつけられるという地の利がよいという、そういう利点があったんですけど、そうやって万博のレガシーが大阪市24区で初めて実験されるというね。住之江区って本当にそういう、結構すごい町だなと私は思います。

ちょっと話がそれちゃうんですけど。この前NTTドコモのオペレーションセンターのところに、南港に。多分皆さん、鉄塔、大きな塔、鉄塔は見たことあると思うんですけど入ったことはないと思うんですね。入ると、本当に宇宙戦艦ヤマトの地球防衛軍みたいな感じなので、すごいんです。東京の品川に東日本全部を管轄してるのがあって、沖縄から大阪まで、西日本はあそこで南港で全てコントロールして、電波状況が悪いとそこから走るらしいです。だから能登の地震のときもあそこから何か車両が出ていたりとか、万博で東口ゲートで人が殺到している、電波がつかないと、あそこから車が行って電波を飛ばしたとかですね。住之江って、広大な敷地があるからなのかもしれないですけど、本当にすごい施設があって。ただそれがあんまり知られてないんだと。やっぱり広報不足だなというふうに思っています。それは、区役所だけの不足というのではなくて、各社の努力不足もあると思うんですけどやっぱりそこは広報していかなきゃいけないというふうに思います。

続々といろいろなものができていくんです。2027年からは旧住吉市民病院の跡地に大阪健康長寿医科学センターというすばらしい大阪公立大学の附属なわけですけど、認知症に特化した研究施設とか。この前、医院長になられる予定の方とお会いしましたが地域と密着して、地域の方も受診していただけるような、そのような体制を整えていきたいというようなお声もありました。そういうすばらしい施設が住之江区に実際、来るわけですね。住吉一中の阪神高速に当たったぐらいのところかな、確か。

それとか、今日防災の話もありましたけども、南港に野鳥園の目の前のところに東大阪市にある消防署の高度専門教育訓練センターというのが2031年なのでちょっと先なんですけど、あそこに大きな備蓄倉庫もできますし、防災の拠点になって、あそこでいろんなトレーニングとかも地域の人も受けられる。なので住之江区は、さっきのNTTドコモもそうなんですけど、自動運転だとかオンデマンドバスとかも含めて本当にいろんなメニューが目白押しで、すぐに短期的なものもあれば中期的、長期的なものもあるんですけど本当に、私はもう住之江区ってポートだけじゃないということはずっと言ってるんですけど、本当にすごいと思うんです。ただ、広報が足りないと思うので、そこはしっかり区も広報していくんですけど皆さんのよい口コミをどうか広げていただいて。一番最初に、やっぱり皆さんと頑張りたいのはAIオンデマンドバス、これをどうか軌道に乗せて区民の足として一つ定着させていければというふうに思います。

話せば、ちょっと切りがないんですけど、オオサカメトロがLUUPに出資をしたということで、LUUPのキックボードを含めた自転車ですね、シェアサイクル。LUUP以外にもハローサイクリングという黄色い自転車もありますし、自転車も非常にこれから網羅性を高めて、住之江は縦の移動は便利でも横の移動が不便というところをちょっと自転車で補おうと私、もともと思っていたんですけど、そこにLUUPのシェアサイクルも加わってくるんですが、やっぱり先ほど、岸本先生のお話もありましたけどもやっぱりモラルというところが問われていて、ヘルメットは努力義務で

はありますけど、当然、飲酒運転は駄目ですし、そういった正しい乗り方というところもやっぱり広報で啓発していかなければいけない。区役所だけだとちょっと限界がありますので、どうか皆さんのお力もお借りしながら民間企業の広報の力もどんどん助けてもらいながら広げていければというふうに思います。

本当に、皆さん前向きな今日もご意見をいただいたので、私もお聞きしながら今日、途中でコメントはしないようにしたんですけど。私も頑張ってるつもりなんですけど、まだまだだなんてちょっと反省しました。なので、しっかり次に活かしてやっていきます。ただ、今結構具体的なお話ができたと思うんですけど、それを一つ一つ皆さんと。区役所だけだとやっぱり力が足りませんから、議員の先生のお力、今ここにいらっしゃる皆さんのお力、あと地域の皆さんのお力を借りながら一つ一つ実現していきたい。まずはA I オンデマンドバスでね、住之江すごいなというような町に。別に、メトロの利益を伸ばしたいというわけじゃないんですけど、やっぱり高齢者の足の確保とか、あと塾に行く子どもたちとか、使い道があると思います。210円で端から端まで行けるってなかなかないですから。平野区とかは、うちの区より狭いんですけどA・Bと分かれてて、平野区は端から端まで行けないんです。途中で乗り換えなきゃいけない、ちょっと理由は分からないんですけど。住之江区は24区でやっぱり一番広いということもあって、南港の先から住吉大社のほうまで来ても210円というメリットがありますので、ぜひ、こういう時代の変化をうまくチャンスと捉えて、皆さんと一丸となってやっていきたいと思います。

すみません。ちょっと長くなってしまいましたが以上でございます。引き続きよろしく申し上げます。ありがとうございます。

○岸田 I C T ・企画担当課長代理

ありがとうございます。本日、ご議論いただきました内容を踏まえまして、令和8年度住之江区運営方針の策定及び取組を進めてまいります。

最後に事務局から事務連絡がございます。次回の区政会議は、部会を5月頃、全体

会を6月頃に予定しております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和7年度住之江区区政会議第3回全体会を閉会いたします。

本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。

以下余白